

正誤表：『R による実証分析』第 2 版*

星野 匡郎[†] 田中 久稔[‡] 北川 梨津[§]

最終更新日：2024 年 6 月 3 日

[\[最新の正誤表へのリンク\]](#)

以下に本書の誤植・誤記の訂正を与えます。ご指摘くださいました読者の皆様に厚くお礼申し上げます。以下に含まれない誤りにお気づきの方は、お手数ですが北川 (ritsu.kitagawa@fuji.waseda.jp) にご連絡いただけますと幸いです。

第 2 刷（2023 年 5 月 25 日）までに残る誤り

57 頁

誤

```
mean(educ12_less$wage) # 高卒以上の平均賃金
```

正

```
mean(educ12_more$wage) # 高卒以上の平均賃金
```

200 頁

誤 表 9.1 中、「(括弧内は標準誤差の値)」。

正 表 9.1 中、「(括弧内は p 値)」。

332 頁

誤

問題 3.1 データの読み込みには、次の命令を実行します。

* オーム社 (2023 年 1 月 26 日出版)。

[†] 早稲田大学政治経済学術院。

[‡] 早稲田大学政治経済学術院。

[§] 早稲田大学大学院経済学研究科。

```
data <- read.csv("data_3.1.csv")
```

そのうえで、各問について以下の命令を実行してください。

- (1) `mean(data$temp)`
- (2) `mean(data$temp[1:100])`
- (3) `mean(sample(data$temp, 100))`
- (4) 解答略

正

問題 3.1 $X + Y$ の分散は、 $\text{Var}[X + Y] = E[((X - \mu_X) + (Y - \mu_Y))^2] = E[(X - \mu_X)^2] + E[(Y - \mu_Y)^2] + 2E[(X - \mu_X)(Y - \mu_Y)]$ となる (μ_X, μ_Y はそれぞれ X, Y の期待値). X と Y とが独立ならば共分散は 0, すなわち $E[(X - \mu_X)(Y - \mu_Y)] = 0$ なので、 $\text{Var}[X + Y] = \sigma_X^2 + \sigma_Y^2$ となる (σ_X^2, σ_Y^2 はそれぞれ X, Y の分散). $X - Y$ の分散も同様に計算すれば、 $\text{Var}[X - Y] = \sigma_X^2 + \sigma_Y^2$ であることがわかる.

以上